

第3号	日の出町内会かわら版	発行日 2023年3月
不定期発行		日の出町内会広報部

第3号の発行です、前回屯田兵の話は次回に、とじていましたが季節的にこちらに差し替えましたのでご了承ください。

「竹スキー」という言葉を懐かしいと言う方は、古希前後まででしょう。

見かけたのは昭和の40年過ぎ頃までと記憶しますが、いつのまにか姿を消したような感じです。長靴にヒョイとひっかけて、スキー場が無くてもしっかりとした坂で雪と楽しめる道具でした。幅は5cm長さは約40cmあり、先の部分5cmが直角に上に曲がっています。その先端に長靴の先を



つけてバランスをとって滑ります。もちろんスピード調節する道具もストックもないので、人のいないところを自分の体重で真っすぐ（基本曲がれない）滑り降りていきます。単純に竹をカットしたスキー（と呼べるかな？）ですが、スピードに乗るとスリル満点です、しかし転ぶときは乗っかっている竹から足が外れた時です。それはもう転んだら直接雪面に転がり込む感じで／痛い何の／と思い起こされます。子供の頃はこんなのでスキー板に本格的に乗る前に、すでにバランス感覚ができていたのだと思います。前回記載しました今の博善社と共同交通（以前はなだらかな畑があった）のある上の坂からよく滑っていたものです。

もう一つ、「雪スケート」（別名ガチャスケート）なるものもあり、氷の上でなく雪の上をスケートのように滑る道具です。どうやって滑るのかというと、当時のゴム製のスキー靴に簡易的なスケート金具（写真）を取り付けて滑ります。滑るより履いて走るといった表現かもしれません。その滑っている様は金具がガチャガチャと音を立てて滑る所以

雪スケート
スキー靴に付ける前の形



からガチャスケートと言われていました。「ほとんどが路上とか空き地で滑る」というより走る感じが正しいかもしれません。もちろん氷上でも滑ることができですがスピードは出ません。今でいうアイスホッケーの選手が履いているのと似ているかもしれません。

『町内会のみなさんこんにちは』 いつも町内会の活動にご協力いただき感謝いたします。

又、氷上で滑るスピードスケートもこの頃からありましたが、スケートリンクのある中島公園（当時は今の池より大きく、夏はボートを楽しめ、冬はスケートリンクになりました）か、円山陸上競技場が冬は400mのスケートリンクになっていましたよ。「若いころ滑ったなあ」という方もいるのではないのでしょうか。その後1972年のオリンピックを機に真駒内屋外スケート場（開会式が行われた会場／写真）ができて市民に親しまれて

いましたが、現在はフィギアスケート会場のみ残っていますね。ちなみに現在の中島公園は、スケートリンクは無く、冬の歩くスキーコースがあり一般開放（1/4～3/5）されています。期間

1972年真駒内五輪開会式



中は歩くスキー板など道具の無料貸し出しがあります。特に雪祭り期間中はライトアップされたトンネルとかがあり、きれいな景色を見ながら滑ることが出来ます。混んでなければ駐車場も無料で気軽に行けるところです。



写真左：イルミネーションされたトンネルの中を滑る歩くスキーの様子。右はスノーフィートという道具でチエコが発祥とか、新しい事も発見できます。

もう一つちなみにですが、中島体育センターではトレーニング室（トレッドミルやベンチプレスなど大まか揃っています）があり一般開放されています。一般の方は当日利用390円、65歳以上の方は130円と、民間のトレーニングジムよりかなりお得です。興味ある方は覗いてみてはいかがでしょうか。

町内の明るいニュースやお住まいの昔の様子分かる写真などがありましたら、是非ご協力をお願いします。（日の出町内会広報部）



かわら版は「北海道循環器病院」のご協力で発刊しています